

これがオススメ! 読み聞かせ本

低・中学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

木に登ると、世の中がまるで違って見える。そんな子ども時代の思い出を私をもつています。それは大きな樺の木でした。「自分の木」があるっていいですね。そのためには、まず、木に登ることが必要です。しかし、今の子どもは大人が仕向けない限り、絶対「木登り」はしないと思います。20年ほど前の教師時代は、1年間のどこかでクラスみんなに木登りの体験してもらおう時間を作ったものでした。しかし今は事故の心配もあり、そういう時間はとれなくなっただけが現実です。それでも、今の子どもたちにも「自分の木」をもつという夢をもつてほしい。そんな願いも込めてこの本を読み語りました。主人公おかるは、「おおきな木がほしい」と思います。おかるさんは、「でも、あぶなく



おおきな きが ほしい

佐藤さとる／文
村上勉／絵
(偕成社)

いかしら」と心配しますが、おかるは「あぶなくなんかないよ。ぼく、あぶなくないように、いろいろかんがえたんだ」と答え、次々と「おおきな木」の様子を想像していきます。

うんと太い幹。幹にかけたはしこ。はしこをのぼって、ほらあなをぬけて、枝が分かれたところには、小屋をたてよう……。おかるの想像は、絵本に見入っている子どもたちの想像をも、どんどん膨らませていくようです。

絵も、とても物語にマッチしていて温かく、話を聞いている子どもたちの顔を見ていると、想像と夢がさらに膨らんでいっているのが読み手にもわかります。絵から目が離せない子どもたちです。

本当に「おおきな木がほしい」